

梅窓院通信

秋彼岸号

No. 90

2017/09/01

青山



5月の団参は知恩院(左上)と清浄華院(左下)と平等院(中央下)に参拝。萬福寺で普茶料理(中央中)をいただき、開パン(中央上)も見学。嵐山の竹林(右上)を歩きトロッコ列車(右下)にも乗りました。

住職挨拶

梅窓院第二十五世 中島 真成

気が付くと今年も残り三分の一になりました。皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか。

さて、梅窓院の樹木葬墓苑、「梅林苑」の工事が終わり、遺骨を埋葬する準備が整いました。梅という字を冠する寺名ながら、境内に梅の木が少ないこともあり、樹木葬の樹として梅を植えることにしました。ですが、植樹の時期は冬が良いとのこと、梅林苑の名にふさわしくなるまで、少しお待ち下さい。

場所は相輪近くになります。詳細についてはお問合せ下さい。

五月に団体参拝で京都を訪れました。浄土宗の総本山知恩院、大本山清浄華院、宇治の平等院ならびに浄土院、黄檗宗の大本山萬福寺、世界遺産の天龍寺、そして伏見の月桂冠酒造を訪れました。

知恩院では、狛下(びか)に拝謁、法話もいただきました。八面の「お檀家さんに伺いました」でもお声を聞かせいただきましたが、貴重な体験を致しました。

秋の大きな行事、秋彼岸と文化講演会ですが、秋彼岸では例年に引き続き写真展を開催することに致しました。詳細は同封の案内チラシをご覧ください。多くの皆様のご応募をお待ちしています。

文化講演会ではマンガ家の里中満智子先生をお迎えします。皆さんも存じのように日本を代表するマンガ家で、漫画以外にも活躍されていますし、どんなお話をいただけるか楽しみです。ちなみに、梅窓院に墓地をお持ちという縁でご快諾いただきました。

十一月にはファン・デン・フックさんのピアノリサイタルが開催されます。今回で十六回目となります。

秋の梅窓院は行事が続きますが、皆様のお元気な顔をお見せいただけることを楽しみにしています。

秋風秋思の仏教句

新宿区 香蓮寺住職

勝崎 裕彦

秋

の風を見て、秋の風を聞き、秋の風を思う。そして、心して深く秋を思う。秋思とは、秋意を汲んで秋の思いを尽くし、秋へ心をいたすことである。秋懐・傷秋・秋あわれの中に秋思秋容がある。

私は今、この小さな秋の思いに私の心ばかりの仏心を重ね合わせてみたい。秋の風を仏心を育てはぐくむ慈風と受けとめて、爽秋好秋を迎えさせていたきたい。

後の彼岸つまり秋の彼岸からはいよいよ本格的な秋。秋心秋情の仏教句を取り上げれば、おのずからおだやかでやさしい仏心句の世界が開けてくるであろう。

ひがんの蚊釈迦のまねして喰はせけり

(大江丸)

すがる蚊も秋の彼岸の阿弥陀経 (杜藻)

安井大江丸は、通称大和屋善兵衛。

飛脚問屋の主人として家業も興し、その余技として文芸一般に明るく、交友知己も広く、温厚にして大人の風格を持ち、自由洒脱な句作をもって聞こえ、天明・寛政期の俳壇の重鎮であった。一方、京極杜藻は、京極家を継いで運輸業界に業績を上げ、原石鼎門として高尚高雅な句風を受け継いだ。その両

人の秋の彼岸句に、夏の残り蚊の小ささまが生きている。「秋だなあ」と感じていただけであるだろうか。

秋暁の行きかかふは皆修行僧

(林火)

不動明王女われぬて秋まひる

(秀野)

山門をぎいと鎖すや秋の暮

(子規)

一山に響く魚板や秋ゆふべ

(繞石)

秋の夜や古き書読む奈良法師

(蕪村)

秋の一日を辿った五句。

抒情精神あふると称される大野林火は、秋の明け方の修行僧のすがすがしい姿を写し取った。

石橋秀野のご夫君は高名な山本健吉氏。著名な俳人たちとの交誼も広く、

その中で女流としての識見・感性を備えた人。この句も、火炎猛火の中の不動明王の猛々しさに対峙して、女性である私を一人置いて、秋日の風気を見ている。

そして正岡子規である。「藪寺に磬打つ音や秋の暮」「老僧の棒加へけり秋の暮」――、いずれも子規の秋の暮の仏教句である。

小泉八雲とのゆかりも深い大谷繞石の秋の夕べの句。魚板は魚鼓ともいい、木魚の異称でもあるが、魚鼓のほうは空洞状で、魚板は板形である。寺堂の

入り口などに吊して、時刻や諸事を知らせるために叩く木製仏具である。

最後は与謝蕪村の名句。「読書の秋」のキャッチフレーズに、東大寺や興福寺の伝統を添える句であるなどと書けば、いかにもお軽いい言草となってしまう。

仏掌上の虚空や秋麗ら

(しげき)

爽かに掌に据えまうる北魏仏

(楸邨)

現代俳人の町田しげきの句心は、仏の手のひら、たなごころの上に悠久無限の虚空をはるかに思い、秋麗・秋麗らの光り輝きを捉えたのである。

そして内面追及の人間探求派の加藤楸邨の一句。合掌の正しい作法と正しい心持ちの中にしっかりと据え落ち着けて、心から深く祈り奉る北魏仏、そのありようを秋の爽気・涼気がさやかにさわやいでいる――、私はこのように理解してみたのである。

さて秋である。私も今、その秋に身と心を置いている。その私自身は古稀七十歳を過ぎて、煩惱の思い煩い、悩み苦しみの最中にある。「秋麗やただ仰ぎ見ん空一点」――、秋の行方に自身自身の生き方、処し方に惑い迷う私である。

(大正大学名誉教授)

五・六・七月の

行事報告

団体参拝旅行

施餓鬼会法要
五月二十日(土)

五月二十七日(土)
五月二十八日(日)



開山忌法要
能楽奉納
六月十日(土)

郡上おどり
in 青山法要
六月二十三日(金)



法要後に本堂で郡上おどりを奉納する郡上おどり保存会の皆さん。

第71回
念仏と法話の会
六月二十六日(月)

盂蘭盆会法要
七月十三日(木)



彼岸寄席 午後1時～ 地下2階 祖師堂にて

プロフィール

1962年荒川区生まれ。
 1981年三遊亭圓歌師匠に入門。
 1993年女性初の真打ち昇進(女流粋)。
 2000年女流粋撤廃され、男性と同様の真打ち扱い。
 寄席・落語の会から、講演会・司会業、コラム執筆など活動の場は幅広い。
 2010年6月より落語協会理事・演芸家連合常任理事就任。
 現在フジテレビ“直撃LIVE! グッディ”に準レギュラー出演中。
 前座:三遊亭粋歌さん



三遊亭歌る多師匠

秋彼岸法要

九月二十三日(土)

法要 午後2時～ 地下2階 祖師堂にて

※ご法要の受付は1階観音堂にてお済ませ下さい。

塔婆 申込み方法

塔婆回向料…1本/7,000円

- 同封のハガキにご記入の上9月15日(金)必着でお申込み下さい。
- 御回向料は、同封の振込用紙で郵便局にてお支払い頂くか、受付までお持ち下さい。(銀行・コンビニでのお支払いはできません。)

お檀家様へ お願い

- お彼岸前後の土・日・祝日はお参りに来られる方で境内が大変混み合います。ご来寺の際は電車等、公共交通機関をご利用下さい。
- 9月20日～26日まで、境内駐車スペースは、お体のご不自由な方、車椅子をお使いの方の車を優先とさせていただきます。ご協力お願い致します。

秋彼岸によせて

大切な亡き人ともう一度会いたい。
 誰しもの願いです。そして、当たり前前のことですが、その思
 いは全世界の人々の共通の願いです。

この六月に中島住職のご厚意によりパリで行われた浄土
 宗フランス開教区十周年記念講演に参加するご縁をいただ
 きました。パリ開教区ご住職の、
 上人の異国での開
 教の尊いお話、その後、スイスのジュネーブで浄土真宗の僧
 侶として活躍されている
 氏の講演と
 続きました。

氏は、法然上人のお念仏のみ教えが凝
 縮された『選択集』を、フランス語に訳すという偉業を成し遂
 げられた方で、「私がなぜ、多くの方がキリスト教を信仰して
 いるヨーロッパで、仏教に帰依したのか」と、とても興味深いお
 話をされました。その理由は仏教の慈悲の教えにとっても感銘
 を受けたこと、そして、その中でも阿弥陀様の【俱会一処】と
 いう教えが有り難かったから、とのことでした。

阿弥陀様を信じ、お念仏を称える者は、皆阿弥陀様の西方
 極楽浄土で再会出来る。浄土信仰を信じるものとして、お話
 の中で私が最も心に染み、とても共感出来ることでした。『再
 び会える』なんとも有り難く優しいみ教えでしょう。私も
 日本から遠く離れた異国、異文化のパリで、皆様と一緒に
 念仏をさせていただきながら、先にお浄土に往生された、そ
 れぞれの大切な亡き人々と極楽浄土で再会できる喜びを
 噛みしめることができました。国は違えど、思いを合わせ南
 無阿弥陀仏とお称えするという、何にも代えがたい大変貴
 重で、尊い体験でした。

もうすぐお彼岸です。お彼岸は真西にある西方極楽浄土
 を最も身近に感じられる期間。

ぜひ、お墓詣り、そしてお堂でのお彼岸法要にご参列し私
 たちと一緒に念仏を共にお称えしましょう。大切な亡き方
 と再び(極楽浄土にて)再会できる喜びを感じられるのでは
 ないでしょうか。

(法務部 西沢)

平成29年度 秋の動物慰霊法要のお知らせ

梅窓院の僧侶がご供養に勤めます。

ぜひご参列下さい。

時 : 正午 於 : 2階本堂

主催: 株式会社日本エキスパートシステム



第8回 秋彼岸写真展のお知らせ

応募作品を観音堂(1階)に展示致します。

締め切りは9月11日(月)です。

ご応募お待ちしております。

※詳細は同封チラシをご覧ください。

浄土宗・祐天寺

東急東横線 祐天寺駅



祐天寺本堂



本堂での勤行の様様。



祐天寺 住職より、丁寧なご説明をいただきました。

第1回

おきおさんぽ会

新連載「おきおさんぽ会」——檀家さんと一緒に寺々をお参りする読者参加企画で、第一回は浄土宗祐天寺と日蓮宗正覚寺を訪れました。二か寺とも歌舞伎に縁の深いお寺だったので、その参拝記をお届けします。今回ご参加いただいた檀家さんは、今年五月の京都団体参拝に参加された、お好きな八人の皆さんでした。

当日、小雨模様の中、東急東横線の祐天寺駅改札に集合。そのこの駅名は、江戸時代の名僧、祐天上人の弟子の祐海上人が、上人遷化後に師僧の名前を冠して一七七八年(享保三年)に開山した寺名が由来になっています。

祐天寺は浄土宗を代表する名刹で、今年祐天上人の三百年御遠忌を迎え、多くの団体参拝などの方々が訪れています。

広い境内から本堂に上がると、二か寺団参でのご縁もあり、住職が自ら導師を務められての勤行、そしてお話をいただきました。また、ご本尊はもとより内陣奥の貴重な宝物まで本当に間近で拝見させていただきました。その

後、ご僧侶の案内で境内を散策、歌舞伎で有名な累塚、祐天上人の本地身(生まれ変わり)と言われる地藏尊などを参拝しました。あっという間に二時間が過ぎ、祐天寺オリジナルの瓦煎餅とお茶をご馳走になった上に、三百年御遠忌の記念品まで頂戴しました。



歌舞伎でしばしば演じられるかさね、上演が決まると演じる役者さんが必ず祐天寺にお参りにみえる累塚。



(上) 東京都の指定有形文化財に指定されている徳川二代将軍正室のお江(崇源院殿)の位牌を祀っていた宮殿。静岡・宝台院から移された。



(下) 祐天上人に姿を変えてこの世に現れたといわれる地藏菩薩。天井に江戸の町火消の纏の絵が描かれている地藏堂に安置されています。



今回の参加は檀家さん8名、梅窓院からの僧侶を含めて4名のスタッフみんなで本堂前で一枚。



境内散策後に中庭を臨む書院でお菓子とお茶をいただきました。



特別な計らいでご本尊を間近で参拝、その真剣な眼差しにご本尊も驚かれたかもしれません。

日蓮宗・正覚寺

東急東横線 中目黒駅



日蓮宗を開かれた日蓮上人の説明を拝聴。



正覚寺山門



客殿から望む中庭。奥には滝が流れています。



山門に入って右手にある三沢初子の像。正覚寺に多大なる寄与をされた初子、歌舞伎のモデルにもなっています。

両寺の参拝の様子は写真とその説明をご覧ください。
いただきました。

他宗の参拝ということもあつてか、第三十世 住職が諸堂すべてを案内、住職自らの丁寧な説明をいただきました。



日蓮宗の本堂、設えは浄土宗とはだいぶ異なります。太鼓が鳴り物の中心だそうです。

日蓮宗は日蓮上人が開かれた宗派で、鎌倉新仏教の代表的宗派のひとつです。題目の「南無妙法蓮華経（＝法華経）」を唱えるところの苦惱から逃れられ、仏になれるという教えです。開宗は一二五三年（建長五年）ですから、浄土宗の法然上人が極楽浄土へ旅立たれてからおよそ四十年後のことです。

正覚寺は江戸時代初期の一六一九年（元和五年）に日

栄上人によって開かれたお寺で、碑文谷の法華寺（現在の

円融寺）の末寺でした。境内には和服姿の凛々しい像があり

ますが、歌舞伎の「伽羅先代萩」の主役政岡の局のモデルと言われる伊達家四代藩主の母である三沢初子の像で

す。加えて正覚寺には初子の邸宅で使われていた欄間などがまだ残っています。



正覚寺 住職。諸堂のご案内、そして、色々なお話をいただきました。

当日の行程

10:00 祐天寺駅東口集合

10:30~12:45 祐天寺参拝

13:00~13:50 **昼食(はな豆)**

14:00~15:00 正覚寺参拝

15:10 中目黒駅解散

昼食は祐天寺から中目黒駅へ向かって坂道を下ること約10分、目黒区役所隣の「はな豆」というお店でヘルシーな野菜料理をいただきました。

お楽しみ
昼食
コーナー



駒沢通り沿いのはな豆はバイキングスタイルの野菜が美味しいお店でした。

今回の囲む人々は、お寺生まれながら小学校の先生を勤めあげ、梅窓院の行事でも法話をいただいたことのある上人にご登場いただきました。取材当日の念仏と法話の会の後に、お話を伺いました。

◆法話、ありがとうございました。休憩は入るものの、90分間ですから、お疲れになられたでしょう。

いいえ、皆さん一所懸命聴いて下さるので、疲れを感じることはありません。

◆そう言っていただけると嬉しい限りです。引き続きよろしくお願ひ致します。上人はいつ梅窓院に隨身されたのですか。

昭和42年からの一年間です。

◆梅窓院に隨身していた学生が多かった頃ですね。

ええ、多くの先輩がいました。この『青山』を読ませていただいていると懐かしい方々が登場されるので、その度ごとに梅窓院時代を思い出します。

◆『青山』を読んでいただいているのにもお礼を申し上げます。

ところで、隨身は一年間、ということでしたが、その理由をお教え下さい。

はい。私は群馬県みどり市にある長壽院ちようじゆういんという寺の三男として生まれたのですが、寺を継ぐのは兄でした。

大きなお寺ではありませんから、寺の仕事は父と兄一人で充分で、三男としては、万が一に備え僧侶の資格をとりませんが、別の職業を持たなくてはいけなかったのです。

◆なるほど。確か弟さんもいらっしやいましたね。

ええ、弟も僧侶の資格を取って、縁あってお寺に入りました。この近くで、南青山にある浄土宗寺院です。

◆そうですか。すると兄弟三人が僧侶の資格を取って、兄がみどり市のお寺、弟が青山のお寺、そして

上人はお寺以外の仕事に就いたのですね。

はい、私も兄同様大正大学に入学しましたが、仏教系の学部ではなく文学部でした。理由は教員資格などを取るためです。

◆学校の先生を職業に選ばれたのですね。

はい。中高の社会の教員資格を取りましたが、最終的には小学校の教員になり定年まで勤務しました。

ということで、大学では僧侶の資格、そして教員の資格、さらに社会教育主事を望みましたがカリキュラムの都合上どうしても取れませんでした。ですから、受けなければならない講義ばかりでした。

◆3つの資格取得では大変ですね。

ええ、毎日朝から晩まで講義が詰まっていたのですが、その頃の梅窓院は隨身の学生に当番が割り当てられ、当番になると、一週間学校に行けなかったのです。となると講義が受けられず、資格どころではなくなりました。そこで、一年間はお世話になりましたが、母の実家である高崎から通いました。

◆なるほど、生きていくための職を見つけなくてはいけないのですからね。事情が飲み込めました。ですが、もともと梅窓院との関係は？

母が高崎の安国寺というお寺に出入りしておりまして、その住職が梅窓院の先代、真哉住職の友人だったからです。

学校の先生らしく、梅窓院での隨身時代の思い出をちゃんとメモしてきてくれた 上人。



念仏と法話の会にて観音堂で資料にそって法話をされる 上人。
小学校の先生を退職されてから、法話をしていただいている。

◆京都の清浄華院の台下になられた方ですね。

一年間の隨身ですが、思い出に残っていることをお聞かせ下さい。

一番ありがたかったのが、読経や袈裟の着け方など、僧侶としてのイロハを学んだことですね。それが今も脈々と生かされています。振り返ってみますと、真哉上人は未来ある僧侶の育成に心血を注がれていたことが、よくわかりました。

定年後に群馬のお寺で法要などのお手伝いをしていのですが、それも梅窓院での隨身時代があったおかげです(笑)。

◆そうですか。三つ子の魂ではありませんが、若い頃に覚えたことは一生ものですね。それ以外では？

夏休みに今の住職、といっても確か小学校の四年生ぐらいでしたが、住職を連れて二人で埼玉の倉常寺に二泊三日で行きました、電車とバスを乗り継いで。住職、自然の中で伸び伸びと遊んでいましたね。

◆二人ということは、信頼されていたのですね。

何で自分だったのかわかりませんでしたが、いい思い出ですね。その後、瀧沢上人の晋山式で何十年ぶりのなつかしい倉常寺が思い出されました。

◆住職も覚えているでしょうか、今度聞いてみます。

今日はお疲れのところ、

ありがとうございました。

これからもよろしく

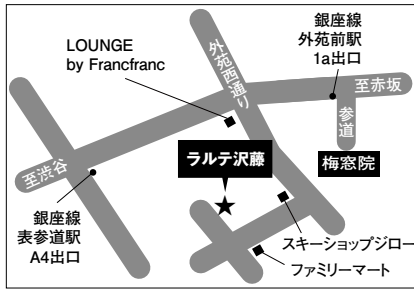
お願ひ致します。



ラルテ沢藤

今回は外苑前駅から徒歩5分。南山の裏通りにあるイタリア料理「ラルテ沢藤」をご紹介します。
店名のラルテはイタリア語で「芸術」という意味。その名の通り、ピンク、黄色、緑など彩り豊かなお料理、それが素敵な絵柄のお皿でサーブされるので、思わず写真に納めたくくなります。
もちろん見た目だけではなく、お薦めのスパゲッティポモドーロは、完熟トマトの甘みと炒めた野菜の香ばしさがモチモチの麺と絡み合つてまさに絶品。

また、オーナーシェフである沢藤さんは「千疋屋」でデザートを任されていたこともあり、フルーツなど甘い食材を使った料理が得意。試食した本日のスープには桃のピューレやカスタードが使用されており、スープながらデザートのような甘さに驚かされる一品に仕上がっていました。
基本コースは6品にデザート、カフェがついて、なんと税込み3,950円。お料理だけではなくこの価格にも大満足です。ぜひ、沢藤流のエッセンスが加えられたアートなイタリア料理をお楽しみ下さい。



営業時間/
ランチ 12:00~15:00(13:30 L.O.)
ディナー 18:00~23:00(20:30 L.O.)
定休日/不定休
席数/12席
住所/東京都港区南青山三丁目4-12
TEL/03-5775-4980



茶色と白の落ち着いた雰囲気店内。都会の喧噪を忘れてゆっくりとお食事をいただくことができます。

PRANZO Dコース ▶
スープ、前菜の盛り合わせ、パスタ、シェフのおまかせパスタ、魚、肉料理、デザート、カフェがついて税込みで3,950円。青山でこの価格は破格。支払いは現金のみとなる代わりに、サービス料(10%)がかからないのもシェフのやさしい心遣い。



青山俳壇

選者「ウェブ俳句通信」編集長

大崎 紀夫

- ◎ 特選
○ 語部のごとく知覧に飛ぶ螢
- ◎ 入選
○ カーテンの動き愉しむ夏座敷
○ 里山は千のみどりや風薫る
○ 面会の始まり告げし白雨かな
○ 柿の花鉄棒の子がへそを出し
○ アヤマ咲く畑の向うを路線パス
○ 早苗田に魚沼産の風が吹く
○ 出窓から涼風の入る夜の厨
○ 乗り換への快速を待つ夏の風
○ 離陸機は右へ向き変へ夏の雲
○ 老鷲のしきりに鳴いて風わたる

◎ 選者 大崎 紀夫

○ 枝蛙こけし工房窓開けて

○ (ワンポイントアドバイス)

言葉の長い季語はにが手だという人が結構います。例えば「四万六千日」「紫式部の美」などですがこれらの季語をそのまま字余りの上五に使うのは、(句またがり)で処理するといわねです。「雲がゆく四万六千/日の空」「仲見世を風ゆく四万/六千日」とか。「紫式部の美」は「紫/式部の美」としたりすると、すっきりした句に仕上がります。長い季語が出たら、シメシメという楽しい気持ちを持つといいでしょう。

大崎 紀夫

投句募集

今回は「秋の季語」でご自由にお読み下さい。10月20日を締切、平成30年1月発送の『新年号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承下さいませ。皆さまの投句をお待ちしております。
〒107-0062 港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。
ウェブ編集室
電話03-5368-1870

第六十八回

食は命なり

食養研究家
武鈴子

「菊花」は食べる薬

春は桜、秋は菊。菊花は日本でも秋の花として馴染み深く、秋になると随所で菊花を愛でる催しが開かれます。中国では、中秋の名月がくると、「菊酒」を飲み、冬の鍋料理には必ず菊花が出されました。

菊は中国から薬草として日本に伝えられました。中国では奇数を陽の数とし、陽の極みである9が重なる9月9日は大変めでたい日とされ、菊の香りを移した「菊酒」を飲んで、邪気を払い、長寿を願うという風習がありました。日本には平安時代にこの習わしが伝わり、宮中では「観菊の宴」が催されて、菊酒を飲み、詩歌を詠んでこの日を祝ったといひます。「重陽の節句」「菊の節句」とも言われています。

『本朝食鑑』(江戸時代)には、菊花は、風邪の熱、めまい、目の充血などを治すと記され、乾した菊花を枕に詰めて用いれば、頭目の病いを除く……とあります。風邪による頭痛、結膜炎、高血圧などを改善する効果があるというわけです。

「菊花酒」は、食用菊200g、氷砂糖100gを交互に容器に入れ、焼酎900ccを注いで1ヵ月おいたら飲めます。料理には、少し苦味があるので、熱湯に酢を少し落としてさつと茹で、三杯酢や胡麻和えなどにするとおいしい。また、白玉粉に菊花を加えて、耳たぶの硬さにこね、小さな団子に丸めて茹でた「菊花だんご」をおしるこに加えれば秋の楽しいデザートに!

平成29年度 後期 仏教講座のご案内

梅窓院では10月より平成29年度後期 仏教講座を開講します。今年度も5名の先生をお迎えしております。どうぞお気軽にご参加下さい。※詳しくは別紙チラシをご覧ください。

お檀家さんに伺いました

平成29年施餓鬼にて

「昔を思い出します」

例年の行事として、今年もお参りに来ました。昔は子供連れて施餓鬼に参加していましたが、最近夫婦でお参りをしています。

お齋は毎年変わらない味で美味しいなと思いながらいいただきました。

今回の法話では、知っているようで知らなかった浄土宗の行事について、大変勉強になりました。

平成29年団体参拝旅行にて

「とても貴重な体験ができました」

梅窓院の団体参拝に初めて参加致しました。団体参拝ならではの滅多に聞けない法話を拝聴し、普段行けない場所にも行くことができたのがとても良かったです。

特に知恩院では伊藤唯眞親下の法話に感動し、メモも取りました。

今回、梅窓院の団体参拝を通して大変貴重な体験ができ感謝しています。

発行 梅窓院
発行日 平成29年9月1日
発行人 中島 真成
編集 青山文化村
住所 〒107-0062
東京都港区南青山2-26-38
電話 03-3404-8447
FAX 03-3404-8436
ホームページ <http://www.baisouin.or.jp/>
E-Mail jodo@baisouin.or.jp
題字 中村康隆元浄土門主
総本山知恩院第八十六世門跡

平成28年度会計報告

自 平成28年4月1日
至 平成29年3月31日
(単位：千円)

■護寺費・年会費・墓地管理費

収入の部		支出の部	
護寺費・年会費として	78,951	浄土宗課金及び大本山宛志納金	3,292
		法要費(仏具・法衣・線香など)	25,052
墓地管理費として	32,473	保守修繕費(建物)	39,290
		保守修繕費(墓苑・境内)	51,427
梅窓院からの繰入金	50,110	人件費	36,120
		事務費(郵送費・コピーなど)	6,353
合計	161,534	合計	161,534

会計報告を本誌に掲載させていただきます。ご確認を宜しくお願ひ致します。

梅窓院より会計のご報告

梅窓院のお墓とペット供養の窓口

日本エキスパートシステム 墓苑事業部からのお知らせ

青山梅窓院墓苑総販売代理店の日本エキスパートシステムです。皆様がこの『青山』をご覧になっている頃……、少しは涼くなっているでしょうか？ 今は墓地内の元気すぎる雑草でご苦労されておられるお檀家様からのお問い合わせがひっきりなしです。最近では年間墓苑清掃業務をご契約される方も増えて参りました。お気軽にお問い合わせ下さい。

さて今年も秋季彼岸会のお中日に「動物慰霊法要」を開催致します。梅窓院無礙光塔に納骨されていない方でも参列できますのでぜひご来寺下さい。皆様が子供の頃に飼っていたワンコ、ニャンコたちが来てくれるかもしれませんし、本堂の中で色々な(ユニークな)ペットちゃんたちの名前が読み上げられるのもちょっと楽しいです。おうちの中では王様(女王様)だった子たちを想うひと時をお持ち下さい。お参りの際に私どもを見かけたらお気軽にお声かけ下さい。

お知合いの方へ梅窓院墓苑のご紹介もぜひお願いします。

行事予定

秋彼岸会法要

9月23日(土)
寄席 午後1時～ 祖師堂
法要 午後2時～ 祖師堂
※詳しくは3面をご覧ください。

第72回 念仏と法話の会

10月2日(月)
受付開始 午前11時～
※詳しくは別紙チラシをご覧ください。

文化講演会



10月21日(土)
開演 午後3時～ 祖師堂
【講師】里中満智子氏
(マンガ家)
※詳しくは別紙チラシ
をご覧ください。



十夜法要

11月18日(土)
法要 午後4時～ 本堂
※詳しくは十夜号をご覧ください。

M・ファン・デン・フック ピアノリサイタル

11月25日(土)
開演 午後3時～ 祖師堂
冥加料 檀家2,000円・
一般5,000円・学生3,000円 / 先着300名
※詳しくは別紙チラシをご覧ください。